

校異源氏物語・あけまき

あまたとしみゝなれたまひにし川かせもこの秋はいとはしたなくものかなしく
て御はての事いそかせたまふおほかたのあるへかしきことゝもは中納言殿あさ
りなどそつかうまつり給ひけるこゝにはほうふくの事経のかさりこまかなる御
あつかひを人のきこゆるにしたかひていとなみ給もいとははなくあはれに
かゝるよその御うしろみなからましかはとみえたり身つからもまうて給ていま
はとぬきすて給ふほと御とふらひあさからすきこえ給あさりもこゝにまいれ
りみやうかうのいとひきみたりてかくてもへぬるなとうちかたらひ給ふほと
りけりむすひあけたるたゝりのすたれのつまより木丁のほころひにすきてみえ
ければその事と心えてわか涙をはたまにぬかなんとうちすし給へる伊勢のこも
かくこそありけめとおかしきこゆるもうちの人はきゝしりかほにさしいらへ
給はむもつゝましくものとはなしにとかつらゆきかこのよなからのわかれを
たに心ほそきすちにひきかけゝむもなとけにふることそ人の心をのふるたより
なりけるをおもひいて給御くわむもんつくり経仏くやうせらるへき心はへなど
かきいて給へるすゝりのついでにまらうと

あけまきになかき契をむすひこめおなしところによりもあはなむとかきて
みせたてまつり給へれはれいのとうるさけれと

ぬきもあへすもろき涙のたまのをになかき契をいかゝむすはんとあればあ
はすはなにをとうらめしけになかめ給身つからの御うへはかくそこはかとなく
もてけちてはつかしけなるにすかゝともえの給よらて宮の御ことをそまめや
かにきこえ給さしも御心にいるましきことをかやうのかたにすこしすゝみ給へ
る御本上にきこえそめ給けむまけしたましゐにやとゝさまかうさまにいとよく
なん御けしきみたてまつるまことにうしろめたくはあるましけなるをなどかく
あなかちにしももてはなれ給らむ世のありさまなどおほしわくましくはみたて
まつらぬをうたてとををしくのみもてなさせ給へはかはかりうらなかつたのみ
きこゆる心にたかひてうらめしくなむともかくもおほしわくらむさまなどをさ
はやかにうけたまはりにしかなといとまめたちてきこえ給へはたかへしの心に
てこそはかうまであやしきよのためしなるありさまにてへたてなくもてなしは

へれそれをおほしわかさりけるこそはあさきこともまさりたるこゝちすれけにかゝるすまゐるなどに心あらむ人はおもひのこす事あるましきをなに事にもをくれそめにけるうちにこのゝたまふめるすちはいにしへもさらにかけてとあらはかゝらはなと行すゑのあらましことにとりませての給をくこともなかりしかはなをかゝるさまにてよつきたるかたをおもひたゆへくおほしをきてけるとなむ思あはせ侍れはともかくもきこえんかたなくてさるはすこし世こもりたるほとにてみ山かくれには心くるしくみえ給人の御うへをいとかく朽木にはなしはてすもかなと人しれすあつかはしくおほえ侍れといかなるへきよにかあらむとうちなけきて物おもひみたれ給けるほとのかはひいとあはれけなりけさやかにをとなひてもいかてかはさかしかり給はむとことはりにてれいのふる人めしいてゝそかたらひ給としころはたゝのちのよさまの心はえにてすゝみまいりそめしをもの心ほそけにおほしなるめりし御すゑのころをひこの御ことゝもを心にまかせてもてなしきこゆへくなんの給契てしをおほしをきてたてまつり給し御ありさまともにはたかひて御心はへともものいとゝあやにくにもものつよけなるはいかにおほしをきつるかたのことなるにやとうたかはしきことさへなむをのつからきゝつたへ給やうもあらむいとあやしき本上にて世の中に心をしむるかたなかりつるをさるへきにてやかうまでもきこえなれにけん世人もやうゝいひなすやうあへかめるにおなしくはむかしの御事もたかえきこえすわれも人もよのつねに心とけてきこえ侍らはやと思ひよるはつきなかるへきことにてもさやうなるためしなくやはあるなどの給つゝけて宮の御ことをもかくきこゆるにうしろめたくはあらしとうちとけ給ふさまならぬはうちゝにさりともおもほしむけたることのさまあらむ猶いかにゝとうちなかめつゝの給へはれいのわろひたる女はらなどはかゝることにはにくきさかしらもいひませて事よかりなともすめるをいとさはあらす心のうちにはあらまほしかるへき御事ともをとおもへともとよりかく人にたかひ給へる御くせともに侍れはにやいかにもいかにもよのつねになにやかやなとおもひより給へる御けしきになむ侍らぬかくてさふらふこれかれもしころたになにのたのもしけあるこのものかくろへも侍らさりき身をすてかたくおもふかきりはほとほとにつけてまかてちりむかしのふるきすちなる人もおほくみたまつりすてたるあたりにましていまはしはしもたちとまりかたけにわひ侍りておはしましゝ世にこそかきりありてかたほならむ御ありさまはいとをしくもなとこたいなる御うるはしさにおほしもとゝこほりつれいまはかう又たのみなき御身ともにていかにもいかにも世になひき給へ

らんをあなちにしりきこえむ人はかへりてものゝ心をもしらすいふかひなきことにてこそはあらめいかなる人かいとかくてよをはすくしはて給へき松の葉をすきてつとむる山ふしたにいける身のすてかたさによりてこそ仏の御をしへをもみち／＼わかれてはおこなひなすなれなとやうのよからぬことをきこえしらせわかき御心ともみたれ給ぬへきことおほく侍めれとたわむへくものしたまはすなかの宮をなむいかて人めかしくもあつかひなしたてまつらむと思ひきこえ給ふへかめるかく山ふかくたつねきこえさせ給める御心さしのとしへてみたてまつりなれ給へるけはひもうとからす思ひきこえさせ給ひいまはとさまかうさまにこまかなるすちきこえかよひ給めるにかの御かたをさやうにおもむけてきこえ給はゝとなむおほすへかめる宮の御ふみなど侍めるはさらにまめ／＼しき御事ならしと侍めるときこゆれはあはれる御ひとことをきゝをき露の世にかゝつらはむかきりはきこえかよはむの心あればいつかたにもみえたてまつらむおなし事なるへきをさまてはたおほしよるなるとうれしきことなれと心のひくかたなむかはかり思ひすつる世に猶とまりぬへきものなりければあらためてさはえ思ひなをすましくなむよのつねになよひかなるすちにもあらすやたゝかやうにものへたてゝ事のこいたるさまならすさしむかひてとにかくにさためなき世のものかたりをへたてなくきこえてつゝみ給御心のくまのこらすもてなし給はむなんはらからなどのさやうにむつまじきほとなるもなくていとさう／＼しくなんよの中のおもふことのあはれにもをかしくもうれはしくも時につけたるありさまを心にこめてのみする身なれはさすがにたつきなくおほゆるにうとかるましくたのみきこゆるきさいの宮はたなれ／＼しくさやうにそこはかとなきおもひのまゝなるくた／＼しさをきこえふるへきにもあらす三条の宮はおやと思きこゆへきにもあらぬ御わか／＼しきなれとかきりあればたやすくなれきこえさせすかしそのほかの女はすへていとうとくつゝましくおそろしくおほえて心からよるへなく心ほそきなりなをさりのすさひにてもけさうたちたることはいとまはゆくありつかすはしたなきこち／＼しさにてまいて心にしめたるかたのことはうちいづることはかたくてうらめしくもいふせくも思きこゆるけしきをたにみえたてまつらぬこそわれなからかきりなくかたくなしきわさなれ宮の御事をもさりともしさまにはきこえしとまかせてやはみ給はぬなといひる給へりおい人はたかはかり心ほそきにあらまほしけなる御ありさまをいとせちにさもあらせたてまつらはやとおもへといつかたもはつかしけなる御ありさまともなれは思のまゝにはえきこえすこよひはとまり給てものかたり

などのとやかにきこえまほしくてやすらひくらし給つあさやかならすものうら
みかちなる御けしきやうくわりなくなりゆけはわつらはしくてうちとけてき
こえ給はむこともいよくくるしけれとおほかたにてはありかたくあはれなる
人の御心なれはこよなくもてなしかたくてたいめむし給ふほとけのおはする
なかのとをあけてみあかしの火けさやかにかゝけさせてすたれにひやうふをそ
へてそおはするにもおほとなふらまいられとなやましようてむらいなるをあ
らはになといさめてかたはらふし給へり御くたものなどわさとはなくしなして
まいらせ給へり御ともの人々にもゆへくしきさかなゝとしていたさせ給へり
らうめいたるかたにあつまりてこの御まへは人けとをくもてなしてしめくゝと
ものかたりきこえ給うちとくへくもあらぬものからなつかしけにあい行つきて
ものゝ給へるさまのなめならす心にいりて思いらるゝもはかなしかくほとも
なきものゝへたてはかりをさはり所にておほつかなく思つゝすくす心をそさの
あまりおかましくもあるかなと思つゝけらるれとつれなくておほかたの世中
のことゝもあはれにもおかしくもさまくきゝ所おほくかたらひきこえ給うち
には人くちかくなどのたまひをきつれとさしももてはなれ給はさらなむとお
もふへかめれはいとしもまもりきこえすさしそきつゝみなよりふしてほとけ
の御ともし火もかゝくる人もなしものむつかしくてしのひて人めせとおとろか
す心ちのかきみたりなやましく侍をためらひてあか月かたにも又きこえんとて
いり給なむとするけしきなり山路わけ侍りつる人はましていとくるしけれとか
くきこえうけ給へるになくさめてこそ侍れうちすてゝいらせ給なはいと心ほそ
からむとて屏風をやをらしあけていり給ぬいとむくつけくてなからはかりい
り給へるにひきとゝめられていみしくねたく心うければへたてなきとはかゝる
をやいふらむめつらかなるわさかなとあはめ給へるさまのいよくをかしけれ
はへたてぬ心をさらにおほしわかねはきこえしらせむとそかしめつらかなりと
もいかなるかたにおほしよるにかはあらむ仏の御まへにてちかこともたて侍ら
むうたてなをち給そ御心やふらしと思そめて侍れは人はかくしもをしはかり思
ましかめれと世にたかへるしれものにてすくし侍そやとて心にくきほとなるほ
かけに御くしのこほれかゝりたるをかきやりつゝみ給へは人の御けはひ思やう
にかほりをかしけなりかく心ほそくあさましき御すみかにすいたらむ人はさほ
りところあるましけなるをわれならてたつねくる人もあらましかはさてやゝみ
なましいかにくちをしきわさならましときしかたの心のやすらひさへあやうく
おほえ給へといふかひなくうしと思てなき給ふ御けしきのいとくをしければ

かくはあらてをのつから心ゆるひしたまふおりもありなむと思わたるわりなきやうなるも心くるしくてさまよくこしらへきこえ給かゝる御こゝろのほどをおもひよらてあやしきまてきこえなれにたるをゆゝしき袖の色などみあらはし給心あさゝに身つからのいふかひなさも思しらるゝにさまゝなくさむかたなくとうらみてなに心もなくやつれ給へるすみそめのほかけをいとはしたなくわひしと思まとい給へりいとかくしもおほさるゝやうこそはとはつかしきにきこえむかたなし袖の色をひきかけさせ給はしもことほりなれとこゝら御らむしなれぬる心さしのしるしにはさはかりのいみおくへくいまはしめたる事めきてやおほさるへきなかゝなる御わきまへ心になむとてかのもののねきゝしありあけの月かけよりはしめておりゝの思ふ心のしのひかたくなり行さまをいとおほきこえ給にはつかしくもありけるかなとうとましくかゝる心はえなからつれなくまめたち給けるかなときゝ給ことおほかり御かたはらなるみしかき木丁を仏の御かたにさしへたてゝかりそめにそひふし給へりみやうかうのいとかうはしくにほひてしきみのいとはなやかにかほれるけはひも人よりはけに仏をも思きこえ給へる御心にてわつらはしくすみそめのいまさらにおりふし心いられたるやうにあはゝしくおもひそめしにたかうへければかゝるいみなからむ程にこの御心にもさりともしたはみ給なむなとせめてのとかに思なし給秋の夜のけはひはかゝらぬところたにをのつからあはれおほかるをましてみねのあらしもまかきのむしも心ほそけにのみきゝわたさるつねなきよの御物かたりに時ゝさしいらへ給へるさまいと見所おほくめやすいきたなかりつる人ゝはかうなりけりとけしきとりてみないりぬ宮のゝ給しさまなとおほしいつるにけになからへは心のほかにかくあるまじき事もみるへきわさにこそはと物のみかなしくて水のをとになかれそふ心ちし給はかなくあけかたになりけり御ともの人ゝおきてこはつくりむまともはいはゆるをとまたひのやとりのあるやうなと人のかたるをおほしやられておかしくおほさるひかりみえつるかたのさうしをおしあけ給てそらのあはれなるをもろともにみ給ふ女もすこしるさりいて給へるにほとみなきのきのちかさなれはしのふの露もやうゝひかりみへもて行かたみにいといえむなるさまかたちともをなにとはなくてたゝかやうに月をも花をもおなし心にもてあそひはかなき世のありさまをきこえあはせてなむすぐさまほしきといとなつかしきさましてかたらひきこえ給へはやうゝおそろしさもなくさみてかういとはしたなからてもへたてゝなときこえはまことに心のへたてはさらにあるましくなむといらへ給ふあかくなりゆきむらとり

のたちさまよふはかせちかくきこゆよふかきあしたのかねのをとかすかにひ、
くいまいとみくるしきをといとわりなくはつかしけにおほしたりことありか
ほにあさ露もえわけ侍まし又人はいかゝをしはかりきこゆへきれいのやうにな
たらかにもてなさせ給てたゝ世にたかひたることにていまよりのちもたゝかや
うにしなさせ給てよ世にうしろめたき心はあらしとおほせかはかりあなかな
る心のほともあはれとおほししらぬこそかひなけれとていて給はむのけしきも
なしあさましくかたはならむとていまよりのちはされはこそもてなし給はむま
ゝにあらむけさはまたきこゆるにしたかひ給へかしとていとすへなしとおほし
たれはあなくなるしやあか月のわかれやまたしらぬことにてけにまとひぬへきを
となけきかちなりにはとりもいつかたにかあらむほのかにをとなふに京おもひ
いてらる

山さとのあはれしらるゝこゑゝにとりあつめたるあさほらけかな女君

鳥のねもきこえぬ山とおもひしを世のうきことはたつねきにけりさうしく

ちまてをくりたてまつり給てよへいりしとくちよりいてゝふし給へれとまどろ
まれすなこりこひしくていとかくおもはましかは月ころもいまゝて心のとかな
らましやなどかへらむこともゝのうくおほえ給ひめ宮は人のおもふらむことの
つゝましきにとみにもうちふされ給はてたのもしき人なくてよをすくす身の心
うきをある人ともゝよからぬ事なにやかやとつきゝにしたかひつゝいひいつ
めるに心よりほかのことありぬへき世なめりとおほしめくらすにはこの人の御
けはひありさまのうとましくはあるましくこ宮もさやうなる御心はえあらはと
おりゝの給おほすめりしかと身つからは猶かくてすくしてむわれよりはさま
かたちもさかりにあたらしけなるなかの宮をひとなみゝにみなしたらむこそ
うれしからめ人のうへになしては心のいたらむかきり思うしろみてむ身つから
のうへのもてなしは又たれかはみあつかはむこの人の御さまのなめになうちま
きたるほとならはかくみなれぬるところのしるしにうちゆるふ心もありぬ
へきをはつかしけにみえにくきけしきもなかゝいみしくつゝましきにわか世
はかくてすくしはてゝむと思つゝけてねなきかちにあかし給へるになこりいと
なやましければなかの宮のふし給へるをくのかたにそひふし給れいならす人の
さゝめきしけしきもあやしとこの宮はおほしつらねたまへるにかくておはした
れはうれしくて御そひきゝせたてまつり給ふに御うつりかのまきるへくもあら
すくゆりかゝる心ちすれはとのゐ人かもあつかひけむ思あはせられてまこと
なるへしといとおしくてねぬるやうにてももの給はすまらうとは弁のおもと

よひいて給てこまかにかたらひをき御せうそこすくくしくきこえをきていて
給ぬあけまきをたはふれにとりなしゝも心もてひろはかりのへたてもたいめん
しつるとやこの君もおほすらむといみしくはつかしければ心ちあしとてなやみ
くらし給つ人くひはのこりなくなり侍ぬはかくしくはかなきことをたに又
つかうまつる人もなきにおりあしき御なやみかなときこゆなかの宮くみなとし
はて給て心はなとえこそ思ひより侍ねとせめてきこえ給へはくらくなりぬるま
きれにおき給てもろともにむすひなし給中納言殿より御ふみあれとけさより
いとなやましくなむとて人つてにそきこえ給さもみくるしくわかしくおほ
すと人々つふやききこゆ御ふくなどはてゝぬきすて給へるにつけてもかたとき
もをくれたてまつらむものとおもはさりしをはかなくすきにける月日のほとを
おほすにいみしく思のほかなる身のうさとなきしつみ給へる御さまともいと心
くるしけなり月ころくろくならはしたる御すかたうすにひにていとなまめかし
くてなかの宮はけにいとさかりにてうつくしけなるにほひまさり給へり御くし
なとすましつころはせてみたてまつり給に世のものおもひわするゝ心ちしてめ
てたければ人しれすちかおとりしてはおもはすやあらむとたのもしくうれしく
ていまは又みゆつる人もなくておや心にかしつきたてゝみきこえ給ふかの人は
つゝみきこえ給しふちのころもあらため給へらむなか月もしつ心なくて又お
はしたりれのやうにきこえむとまた御せうそこあるに心あやまりしてわつら
はしくおほゆれはとかくきこえすまひてたいめむし給はす思のほかに心うき御
心かな人もいかにおもひ侍らむと御ふみにてきこえ給へりいまはとてぬき侍し
ほとんどの心まとひに中くしつみはへりてなむえきこえぬとありうらみわひてれ
いの人めしてよろつにの給よにしらぬ心ほそさのなくさめにはこの君をのみた
のみきこえたる人くなれは思にかなひ給てよのつねのすみかにうつろひなと
し給はむをいとめてたかるへきことにいひあはせてたゝ入たてまつらむとみな
かたらひあはせけりひめ宮そのけしきをはふかくみしり給はねとかくとりわき
て人めかしなつたまふめるにうちとけてうしろめたき心もやあらむゝかしも
のかたりに心もてやはとある事もかゝる事もあめるうちとくましき人の心に
こそあめれと思より給てせめてうらみふかくはこの君をおしいてむおとりさま
ならむにてたにさてもみそめてはあさはかにはもてなすましき心なめるをまし
てほのかにもみそめてはなくさみなむことにいてゝはいかてかはふとさる事を
まちとる人のあらむほいになむあらぬとうけひくけしきのなかなるはかたへは
人のおもはむことをあいなうあさきかたにやなとつゝみ給ふならむとおほしか

まふるをけしきたにしらせ給はすはつみもやえむとみをつみていとおしければ
よろつにうちかたらひてむかしの御おもむけも世中をかく心ほそくてすくしは
つとも中／＼人わらへにかる／＼しき心つかうなゝとの給をきしをおはせし世
の御ほたしにてをこなひの御心をみたりしつみたにいみしかりけむをいまはと
てさはかりの給しひとことをたにたかへしと思侍れは心ほそくなともことに思
はぬをこの人／＼のあやしく心こはき物にゝくむめるこそいとわりなければに
さのみやうのものとすくし給はむもあけるゝ月日にそへても御ことをのみこ
そあたらしく心くるしかなしき物に思ひきこゆるを君たによのつねにもてな
し給てかゝる身のありさまもおもたゝしくなくさむはかりみたてまつりなさは
やときこえ給へはいかにおほすにかと心うくてひとゝころをのみやはさて世に
はて給へとはきこえ給けむはか／＼しくもあらぬみのうしろめたさはかすそひ
たるやうにこそおほされためりしか心ほそき御なくさめにはかくあさゆふにみ
たてまつるよりあかなるかたにかとなまうらめしく思給つればけにといとおし
くて猶これかれうたてひか／＼しきものにいひおもふへかめるにつけて思みた
れ侍そやといひさし給つくれゆくにまらうとはかへり給はすひめ宮いとむつか
しとおほす弁まいりて御せうそこもきこえつたへてうらみたまふをことほり
なるよしをつふ／＼ときこゆれはいらへもし給はすうちなけきていかにもてな
すへき身にかはひとゝころおはせましかはともかくもさるへき人にあつかはれ
たてまつりてすくせといふなるかたにつけて身を心ともせぬ世なれはみなれい
のことにてこそは人わらへなるとかをまかくすなれあるかきりの人はとしつも
りさかしけにをのかしゝは思つゝ心をやりてにつかはしけなることをきこえし
らすれとこはか／＼しきことかは人めかしからぬ心ともにてたゝひとかたに
いふにこそはとみ給へはひきうこかしつばかりきこえあへるもいと心うかうと
ましくてとうせられ給はすおなし心になにこともかたらひきこえ給なかの宮は
かゝるすちにはいますこし心もえすおほとかにてなにともきゝいれ給はねはあ
やしくもありける身かなとたゝおくさまにむきておはすれはれいの色の御そと
もたてまつりかへよなとそゝのかしきこえつゝみなさる心すへかめるけしきを
あさましくけになにのさはりとこころかはあらむほともなくてかゝる御すまゐの
かひなき山なしの花そのかれむかたなかりけるまらうとはかくけせうにこれか
れにもくちいれさせすしのひやかにいつありけむことゝもなくもてなしてこそ
と思ひそめ給ひけることなれは御心ゆるし給はすはいつもかくてすくさ
むとおほしの給ふをこのおい人のをのかしゝかたらひてけせうにさゝめきさは

いへとふかゝらぬけにおいひかめるにやいとおしくそみゆるひめ宮おほしわつらひて弁かまいれるにの給ふところも人にゝぬ御心よせとのみの給わたりしをきゝをきいまとなりてはよろつにのこりなくたのみきこえてあやしきまてうちとけにたるを思ひしにたかふさまなる御心はえのましりてうらみ給めるこそわりなけれよに人めきてあらまほしき身ならはかゝる御ことをもなにかはもてはなれても思はましされとむかしより思はなれそめたる心にていとくるしきをこの君のさかりすぎ給はむもくちおしけにかゝるすまゐもたゝこの御ゆかりにところせくのみおほゆるをまことにむかしを思きこえ給心さしならはおなしことにおもひなし給へかし身をわけたる心の中はみなゆつりてみたてまつらむ心ちなむすへき猶かうやうによろしけにきこえなされよとはちらひたるものからあるへきさまをのたまひつゝくれはいとあはれとみたてまつるさのみこそはさきくも御けしきをみ給ふれはいとよくきこえさすれとさはえ思ひあらたむまし兵部卿宮の御うらみふかさまさるめれは又そなたさまにいとよくうしろみきこえむとなむきこえ給それも思やうなる御事ともなりふた所なからおはしましでことさらにいみしき御心つくしてかしつきゝこえさせ給はむにえしもかく世にありかたき御ことゝもさしつとひ給はさらましかしこけれとかういとたつきなける御ありさまをみたてまつるにいかになりはてさせ給はむとうしろめたくかなしくのみゝたてまつるをのちの御心はしりかたけれとうつくしくめてたき御すくせともにこそおはしましけれとなむかつゝおもひきこゆるこ宮の御ゆいこんたかへしとおほしめすかたはことほりなれとそれはさるへき人のおはせすしなほとならぬ事やおはしまさむとおほしていましめきこえさせ給ふめりしにこそこののゝさやうなる心はえものし給はましかはひとゝころをうしろやすくみをきたてまつりていかにうれしからましとおりのたまはせしものをほとほとにつけておもふ人にをくれ給ぬる人はたかきもくたれるも心のほかにあるまじきさまにさすらふたくひたにこそおほく侍めれそれみなれいの事なめれはもときいふ人も侍らすましてかくはかりことさらにもつくりいてまほしけなる人の御ありさまに心さしふかくありかたけにきこえ給をあなちにもてはなれさせ給ふておほしをきつるやうにをこなひのほいをとけ給ともさりとて雲霞をやはなとすへてことおほく申つゝくれはいとにくゝ心つきなしとおほしてひれふし給へりなかの宮もあいなくいとをしき御けしきかなとみたてまつり給てもろともにれいのやうに御とのこもりぬうしろめたくいかにもてなさむとおほえ給へことさらめきてさしこもりかくろへ給へきものゝくまたになき御

すまるなれはなよゝかにおかしき御そうへにひきゝせたてまつり給てまたけは
ひあつきほとなれはすこしまろひのきてふし給へり弁はの給ひつるさまをまら
うとにきこゆいかなれはいとかくしもよを思はなれ給ふらむひしりたち給へり
しあたりにてつねなきものに思しり給へるにやとおほすにいとゝ我心かよひて
おほゆれはさかしたちにくゝもおほえすさらはものこしなにもいまはあるま
しきことにおほしなるにこそはあなれこよひばかりおほとこのこもるらむあたり
にもしのひてたはかれとの給へは心して人としつめなと心しれるとちは思か
まふよあすこしするほどに風のをとあらゝかにうち吹にはかなきさまなるし
とみなとはひしゝとまきるゝをとに人のしのひ給へるふるまひはえきゝつけ
給はしと思ひてやをらみちひきいるおなし所におほとこのこもれるをうしろめた
しと思へとつねの事なれはほかゝにともいかゝきこえむ御けはひをもたとたと
くゝしからすみたてまつりしり給へらむと思けるにうちもまどろみ給はねはふ
ときゝつけたまてやをらおきいて給ぬいとゝくはひかくれ給ぬなに心もなくね
いり給へるをいとゝゝをしくいかにするわさそとむねつふれてもろともにかく
れなはやと思へとさもえたちかへらてわなゝゝゝみ給へは火のほのかなるに
うちきすかたにていとなれかほに木丁のかたひらをひきあけて入ぬるをいみし
くいとをしくいかにおほえ給はむと思ながらあやしきかへのつらにひやうふを
たてたるうしろのむつかしけなるにゐ給ぬあらましことにてたにつらしと思た
まへりつるをまいていかにめつらかにおほしうとまむといと心くるしきにもす
へてはかゝしきうしろみなくておちとまる身ともかなしきを思つゝけ給に
いまはとて山にのほり給しゆふへの御さまなとたゝいまの心ちしていみしくこ
ひしくかなしくおほえ給中納言はひとりふし給へるを心しけるにやとうれしく
て心ときめきし給にやうゝあらさりけりとみるいますこしうつくしくらうた
けなるけしきはまさりてやとおほゆあさましけにあきれまどひ給へるをけに心
もしらさりけるとみゆれはいとゝゝをしくもあり又おしかへしてかくれ給へら
むつらさのまめやかに心うくねたければこれをもよそのものとはえ思はなつま
しけれとなをほいのたかはむくちおしくてうちつけにあさかりけりともおほえ
たてまつらしこのひとふしは猶すくしてつるにすくせのかれすはこなたさまに
ならむもなにかはこと人のやうにやはと思さましてれいのおかしくなつかしき
さまにかたらひてあかし給つおい人ともはしそしつと思てなかの宮いつこにか
おはしますらむあやしきわさかなととりあへりさりともあるやうあらむなど
いふおほかたれいのみたてまつるにしはのふる心ちしてめてたくあはれにみま

ほしき御かたちありさまをなとていともてはなれてはきこえ給らむなにかこれ
はよの人のいふめるおそろしきかみそつきたてまつりたらむとは、うちすきて
あい行なけにいひなす女あり又あなまかゝしなその物かつかせ給はむたゝ人
にとをくておひいてさせ給めればかゝる事にもつきゝしけにもてなしきこえ
給人もなくおはしますすにはしたなくおほさるゝにこそいまをのつからみたてま
つりなれ給なは思きこえ給ひてんなとかたらひてとくうちとけておもふやうに
ておはしまさなむといふゝねいりていひきなとかたはらいたくするもありあ
ふ人からにもあらぬ秋の夜なれとほともなくあけぬる心ちしていつれとわくへ
くもあらずなまめかしき御けはひを人やりならすあかぬ心ちしてあいおほせよ
いと心うくつらき人の御さまみならひ給なよなどのちせを契ていて給我なから
あやしくゆめのやうにおほゆれと猶つれなき人の御けしきいまひとたひみはて
むの心に思のとめつゝれいのいてゝふし給へり弁まいりてゐとあやしく中の宮
はいづくにかおはしますすらむといふをいとはつかしく思かけぬ御心ちにいかな
りけんことにかと思ひふし給へりきのふの給しことをおほしいてゝひめ宮をつ
らしと思きこえ給あけにけるひかりにつきてそかへのなかのきりゝすはいい
て給へるおほすらむ事のいとゝおしければかたみにものもいはれ給はすゆか
しけなく心うくもあるかないまよりのちも心ゆるいすへくもあらぬ世にこそと
思みたれ給へり弁はあなたにまいりてあさましかりける御心つよさをきゝあら
はしていとあまりふかく人にくかりける事といとおしく思ほれあたりきしかた
のつらさはなをのこりある心ちしてよろつに思なくさめつるをこよひなむまこ
とにはつかしく身もなけつへき心ちするすてかたくおとしをきたてまつり給へ
りけん心くるしさを思きこゆるかたこそ又ひたふるに身をもえおもひすつまし
けれかけゝしきすちはあつかたにもおもひきこえしうきもつらきもかたゝ
にわすられ給ましくなん宮などのほかしけなくきこえ給めるをおなしくは心
たかくと思ふかたそこにもものし給らんと心えはてつれはいとことはりにはつ
かしくてまたまいりて人ゝにみえたてまつらむこともねたくなむよしかくお
こかましき身のうへまた人にたにもらし給なとえむしをきてれいよりもいそき
いて給ぬたか御ためもいとおしくとさゝめきあへりひめきみもいかにしつるこ
とそもしをろかなる心ものしたまはゝとむねつふれて心くるしければすへてう
ちあはぬ人ゝのさかしらにくしとおほすさまゝ思給ふに御ふみありれいよ
りはうれしとおほえ給もかつはあやし秋のけしきもしらすかほにあをきえたの
かたえいとこくもみちたるを

おなしえをわきてそめける山ひめにいつれかふかき色と、は、やさばかり
うらみつるけしきもことすくなにことそきてをしつゝみ給へるをそこはかとな
くもてなしてやみなむとなめりとみ給も心さはきてみるかしこましく御かへり
といへはきこえ給へとゆつらむもうたておほえてさすかにかきにくゝ思みたれ
給

山ひめのそむるこゝろはわかねともうつろふかたやふかきなるらんことな
しひにかき給へるかおかしくみえければなをえゑんしはつましくおほゆ身をわ
けてなどゆつり給けしきはたひくゝみえしかとうけひかぬにわひてかまへ給へ
るなめりそのかひなくかくつれなからむもおしくなさけなき物に思をかれ
ていよくはしめのおもひかなひかたくやあらんとかくいひつたへなとすめる
おい人の思はむ所もかろろしくとにかくに心をそめけむたにくやくはか
りの世の中を思すてむの心に身つからもかなはさりけりと人わろく思しらるゝ
をましてをしなへたるすきものゝまねにおなしあたりかへすかへすこきめくら
むいと人わつらへなるたなゝしをふねめきたるへしなとよもすから思あかし給
てまたありあけのそもおかしきほとに兵部卿宮の御かたにまいり給三条宮や
けにしのは六条の院にそうつろひ給へればちかくてはつねにまいり給宮もお
ほすやうなる御心ちし給けりまきるゝ事なくあらまほしき御すまゐにおまへの
せむさいほかのにはすおなし花のすかたも木草のなひきさまもことにみなさ
れてやり水にすめる月のかけさへゑにかきたるやうなるにおもひつるもしるく
おきおはしましけり風につきて吹くるにほひのいとしるくうちかほるにふとそ
れとうちおとろかれて御なをしたてまつりみたれぬさまにひきつくるひていて
給はしをのほりもはてすつゝい給へれば猶うへになとも給はてかうらんによ
りる給て世中の御ものかたりきこえかはし給ふかのわたりの事をもものゝつい
てにはおほしいてゝよろつにうらみ給もわりなしや身つからの心にたにかなひ
かたきと思ふくゝさもおはせなむと思なるやうのあれはれいよりはまめやか
にあるへきさまなと申給あけくれのほどあやにくにきりわたりてそらのけはひ
ひやゝかなるに月はきりにへたてられてこのしたもくらくなまめきたり山さ
のあはれなるありさま思いて給にやこのころのほとはかならずをくらかし給な
とかたらひ給を猶わつらはしかれは
をみなへしさけるおほのをふせきつゝ心せはくやしめをゆふらむとたはふ
れ給ふ

霧ふかきあしたのはらのをみなへしこゝろをよせてみる人そみるなへてや

はなとねたましきこゆれはあなかしかましとはてくははらたち給ぬとしころ
かくの給へと人の御ありさまをうしろめたく思しにかたちなどもみおとし給ま
しくをしはからるゝ心はせのちかおとりするやうもやなとそあやうく思はたり
しをなに事もくちをしはものし給ふましかめりとおもへはかのいとをしう
ちうちに思たはかり給ふありさまもたかふやうならむもなさけなきやうなるを
さりとしてさはたえおもひあらたむましくおほゆれはゆつりきこえていつかたの
うらみをもおはしなとしたに思かまふる心をもしり給はて心せはくとりなし給
もおかしけれとれいのかるらかなる御心さまにも思はせむこそ心くるしかる
へけれなとおやかたになりてきこえ給よしみ給へかはかり心にとまることなむ
またなかりつるなといとまめやかのに給へはかの心ともにはさもやとうちなひ
きぬへきけしきはみえすなむ侍るつかうまつりにくきみやつかへにこそ侍やと
ておはしますへきやうなどこまかにきこえしらせ給ふ廿八日のひかむのはてに
てよき日なりければ人しれす心つかひしていみしくしのひていてたてまつるき
さいの宮なときこしめしいてゝはかゝる御ありきいみしくせいしきこえ給へは
いとわつらはしきをせちにおほしたる事なれはさりけなくともてあつかふもわ
りなくなむふなわたりなどところせければことくしき御やとりなどもかり
給はすそのわたりいとちかきみしやうの人のいゑにいとしのひて宮をはおろし
たてまつり給ておはしぬみとかめたてまつるへき人もなければとゝのゐ人はわつ
かにいてゝありくにもけしきしらせしとなるへしれいの中納言とのおはします
とてけいめいしあへり君たちなまわつらはしくきゝ給へとうつろふかたことに
にはほしをきてしかはとひめ宮おほすなかの宮はおもふかたことなめりしかは
さりともとおもひなから心うかりしのちはありしやうにあね宮をも思きこえ給
はす心をかれてものし給なにやかやと御せうそのみきこえかよひていかなる
へきことにかと人くも心くるしかる宮をは御むまにてくらきまきれにおはし
まさせ給て弁めしいてゝこゝもとにたゝひと事きこえさすへきことなむ侍るを
おほしはなつまみたてまつりてしにいとつかしけれとひたやこもりにては
えやむましきをいましはしふかしてをありしさまにはみちひき給てむやなとう
らもなくかたらひ給へはいつかたにもおなし事にこそはなと思てまいりぬさな
むときこゆれはされはよおもひうつりにけりとうれしくて心おちゐてかのいり
給へきみちにはあらぬひさしのさうしをいとよくさしてたいめむし給へりひと
こときこえさすへきかまた人きくはかりのゝしらむはあやなきをいさゝかあけ
させ給へるといふせしときこえさせ給へといとよくきこえぬへしとてあけ給は

すいまはどうつろひなむをたゝならしとていふへきにやなにかはれいなぬた
いめんにもあらず人にくゝいらへてよもふかさしなと思てかはかりもいて給へ
るにさうしのなかより御袖をとらへてひきよせていみしくうらむれはどうた
でもあるわさかななににきゝいれつらむとくやしくむつかしけれとこしらへて
いたしてむとおほしてこと人と思わき給ましきさまにかすめつゝかたらひ給へ
る心はえなといとあはれなり宮はをしへきこえつるまゝに一よのとくちにより
てあふきをならし給へは弁もまいりてみちひききこゆさきゝもなれにける道
のしるへおかしとおほしつゝいり給ぬるをもひめ宮はしり給はてこしらへいれ
てむとおほしたりおかしくもいとをしくもおほえてうちうち心もしらさりけ
るうらみをかれんもつみさり所なき心ちすへければ宮のしたひ給ひつればえき
こえいなひてこゝにおはしつるをもせてこそまき給ぬれこのさかしたつめ
る人やかたらはれたてまつりぬらむなかそらに人わらへにもなり侍ぬへきかな
との給にいますこし思よらぬ事のもあやに心つきなくなりてかくよろつにめ
つらかなりける御心のほどもしらていふかひなき心おさなさもみえたてまつり
にけるおこたりにおほしあなつるにこそはといはむかたなく思給へりいまはい
ふかひなしことはりはかへすゝきこえさせてもあまりあらはつみもひねらせ
給へやむことなきかたにおほしよるめるをすくせなといふめるものさらに心
かなはぬ物に侍めれはかの御心さしはことに侍けるをいとをしく思給ふるに
かなはぬ身こそをき所なく心うくはへりけれ猶いかゝはせむにおほしよはりねこ
のみさうしのかためはかりいとつよきもまことに物きよくをしはかりきこゆる
人も侍らししるへといさなひ給へる人の御心にもまさにかくむねふたかりてあ
かすらむとはおほしなむやとてさうしをもひきやふりつへきけしきなれはいは
むかたなく心つきなけれとこしらへむと思しつめてこのゝ給ふすちすくせとい
ふらむかたはめにもみえぬ事にていかにもゝ思たとられすしらぬ涙のみきり
ふたかる心ちしてなんこはいかにもてなし給そと夢のやうにあさましきにのち
のよのためしにいひいつる人もあらはむかし物かたりなどにおこめきてつくり
いてたる物のたとひにこそはなりぬかめれかくおほしかまふる心のほとをもち
かなりけるとかはをしはかり給はむなをいとかくおとろゝしく心うくなとり
あつめまとはし給そ心よりほかになからへはすこし思のとまりてきこえむ心ち
もさらにかきくらすやうにていとなやましきをこゝにうちやすまむゆるし給へ
といみしくわひ給へはさすがにことほりをいとよくの給か心はつかしくらうた
くおほえてあか君御心にしたかふことのたくひなければこそかくまでかたくな

しくなり侍れいひしらすにくゝうとましきものにおほしなすめれはきこえむか
たなしいとゝ世にあとゝむへくなむおほえぬとてさらはへたてなからもきこえ
させむひたふるになうちすてさせ給そとてゆるしたてまつり給へれはひいり
てさすかにいりもはて給はぬをいとあはれと思てかはかりの御けはひをなくさ
めにてあかし侍らむゆめゝときこえてうちもまどろまずいとゝしき水のをと
にめもさめてよはのあらしに山とりの心ちしてあかしかね給れいのあけ行けは
ひにかねのこゑなときこゆいきたなくていて給へきけしきもなきよと心やまし
くこはつくり給もけにあやしきわさなり

しるへせし我やかへりてまとふへき心もゆかぬあけくれの道かゝるためし

世にありけむやとの給へは

かたゝにくらす心をおもひやれ人やりならぬ道にまとはゝとほのかにの
給ふをいとあかぬ心ちすれはいかにこよなくへたゝりて侍めれはいとはりなう
こそなとよろつにうらみつゝほのゝとあけ行ほとによへのかたよりいて給な
りいとやはらかにふるまひなし給へるにほひなとえむなる御心けさうにはいひ
しらすしめ給へりぬひ人ともはいとあやししく心えかたく思まとはれけれどさり
ともあしさまなる御心あらむやはとなくさめたりくらきほとにといそきかへり
給ふみちのほともかへるさはいとはるけくおほされて心やすくもえゆきかよは
さらむことのかねていとくるしきをよをやへたてんと思なやみ給なめりまた人
さはかしからぬあしたのほとおはしつきぬらうに御くるまよせており給ふこ
とやうなる女車のさましてかくろへいり給にみなわらひ給てをろかならぬ宮つ
かへの御心さしとなむ思給ふると申給しるへのおこましさもいとねたくてう
れへもきこえ給はす宮はいつしかと御ふみたてまつり給山さとはたれもゝ
うつゝの心ちし給はすおもひみたれ給へりさまゝにおほしかまへけるをいろ
にもいたし給はさりけるようとうとましくつらくあね宮をは思きこえ給てめもみ
あはせたてまつり給はすしらさりしさまをもさはゝとはえあきらめ給はてこ
とはりに心くるしく思きこえ給人ゝもいかにはへりしことになと御けしき
みたてまつれとおほしほれたるやうにてたのもし人のおはすれはあやしきわさ
かなと思あへり御ふみもひきときてみせたてまつり給へとさらにおきあかり給
はねはいとひさしくなりぬと御つかひわひけり

よのつねに思やすらむつゆふかき道のさゝはらわけてきつるもかきなれ給
へるすみつきなどのことさらにえむなるもおほかたにつけてみ給しはおかしく
おほえしをうしろめたくもの思はしくてわれさかし人にてきこえむもいとつゝ

ましければまめやかにあるへきやうをいみしくせめてかゝせたてまつり給しを
むいろのほそなかひとかさねにみへかさねのはかまくして給ふ御つかひくるし
けに思たればつゝませてともなる人になむをくらせ給ふことくしき御つかひ
にもあらすれいたてまつれ給ふうへわらはなりことさらに人にけしきもらさし
とおほしければよへのさかしかりしおい人のしわさなりけりもののしくなむき
こしめしけるその夜もかのしるへさそひ給へとれせい院にかならずさふらふへ
きこと侍れはとてとまり給ぬれいのことにふれてすさまじけによをもてなすと
にくゝおほすいかゝはせむほいならさりし事とてをろかにやはと思よりはり給て
御しつらひなとうちはぬすみかなれとさるかたにおかしくしなしてまちきこ
え給けりはるかなる御なかみちをいそきおはしましたりけるもうれしきわさな
るそかつはあやしきさうしみはわれにもあらぬさまにてつくるはれたてまつり
給まゝにこき御そのいいたくぬるればさかし人もうちなき給つゝ世中にひさ
しくもおほえ侍らねはあけくれのなかめにもたゝ御ことをのみなん心くるし
くおもひきこゆるにこの人ゝもよかるへきさまのことゝきゝにくきまていひ
しらすめれはとしへたる心ともにはさりともよのことほりをもしりたらむはか
はかしくもあらぬ心ひとつをたてゝかくてのみやはみたてまつらむと思なるや
うもありしかとたゝいまかくおもひもあへすはつかしきことゝもにみたれおも
ふへくはさらに思かけ侍らさりしにこれやけに人のいふめるのかれかたき御ち
きりなりけんいとこそくるしけれすこしおほしなくさみなむにしらさりしさま
をもきこえんにくしとなおほしいりそつみもそえたまふと御くしをなてつくる
ひとつゝきこえ給へはいらへもし給はねとさすかにかくおほしの給ふかけにうし
ろめたくあしかれとおほしをきてしを人わらへにみくるしきことそひてみあ
つかはれたてまつらむかいみしさをよろつに思ふ給へりさる心もなくあきれ給
へりしけはひたになへてならすおかしかりしをまいてすこしよのつねになよひ
給へるは御心さしもまさるにたはやすくかよひたまはさらむ山みちのはるけさ
もむねいたきまておほして心ふかけにかたらひたのめ給へとあはれともいかに
とも思わき給はすいひしらすかしつものゝひめ君もすこしよのつねの人けち
かくおやせうとなといひつゝ人のたゝすまるをもみなれ給へるはものゝはつか
しさもおそろしさもなのめにやあらむいゑにあかめきこゆる人こそなければく
山ふかき御あたりなれば人にとをくものふかくてならひ給へる心ちに思かけぬ
ありさまのつゝましくはつかしくなにも世の人にゝすあやしくる中ひたら
むかしはかなき御いらへにてもいひいてんかたなくつゝみ給へりさるはこの君

しもそらうくしくかあるかたのにほひはまさり給へる三日にあたるよもち
いなむまいると人くのきこゆれはことさらにさるへきいはるの事にこそはと
おほして御まへにてせさせ給ふもとくしくかつはおとなになりてをきて給
も人のみるらむことは、かられておもてうちあかめておはするさまいとおかし
けなりこのかみ心にやのとかにけたかきものから人のためあはれになさけく
しくそおはしける中納言殿よりよへまいらむとおもたまへしかと宮つかへのら
うもしるしなけるよにおもたまへうらみてなむこよひはさうやくもやとおも
ふ給へれと、のゐ所のはしたなけに侍りしみたり心ちいと、やすからてやすら
はれ侍とみちのくにかみにおいつきかき給てまうけの物ともこまやかにぬひな
ともせさりけるいろくおしまきなとしつゝみそひつあまたかけこ入ておい人
のもとに人くのれうにとて給へり宮の御かたにさふらひけるにしたかひてい
とおほくもえとりあつめ給はさりけるにやあらむたゝなるきぬあやなとしたに
はいれかくしつゝ御れうとおほしきふたぐたりいときよらにしたるをひとへの
御その袖にこたゐの事なれと

さよ衣きてなれきとはいはすともかことはかりはかけすしもあらしとおと

しきこえ給へりこなたかなたゆかしけなき御ことをはつかしくいとゝみ給て御
かへりにもいかゝはきこえんとおほしわつらふほと御つかひかたへはにけかく
れにけりあやしきしも人をひかへてそ御返たまふ

へたてなき心はかりはかよふともなれし袖とはかけしとおおもふ心あはた

ゝしくおもひみたれ給へるなこりにいとゝなをなをしきをおほしけるまゝとま
ちみ給人はたゝあはれにそもひなされ給ふ宮はその夜内にまいり給てえまか
てたまふましけるを人しれす御心もそらにておほしなけきたるに中宮猶かく
ひとりおはしましてよのなかにすい給へる御名のやうくきこゆる猶いとあし
きことなりな事ものこのましくたてたる御心なつかひ給そうへもうしろめ
たけにおほしの給ふとさとすみかちにおはしますをいさめきこえ給へはいとく
るしとおほして御とのゐ所にいて給て御ふみかきてたてまつれ給へるなこりも
いたくうちなかめておはしますに中納言のきみまいり給へりそなたの心よせと
おほせはれいよりもうれしくていかゝすへきとかくゝらくなりぬめるを心も
みたれてなむとなけかしけにおほしたりよく御けしきをみたてまつらむとおほ
してひころへてかくまいり給へるをこよひさふらはせ給はていそきまかて給な
むいとゝよろしからぬことにやおほしきこえさせたまはん大はん所のかたにて
うけたまはりつれば人しれすわつらはしき宮つかへのしるしにあひなきかむた

うにや侍らむとかほの色たかひ侍りつると申給へはいつき、にく、そおほしの
給ふやおほくは人のとりなすことなるへしよにとかめあるはかりの心はなにこ
とにかはつかふらむところせき身のほとこそ中／＼なるわさなりけれとてまこ
とにいとほしくさへおほしたりいとをしくみたてまつり給ておなし御さはかれ
にこそはおはすなれこよひのつみにはかはりきこえて身をもいたつらになし侍
なむかしこはたの山にむまはいか、侍へきいと、もの、きこえやさはり所なか
らむときこえ給へはた、くれにくれてふけにける夜なれはおほしわひて御むま
にていて給ぬ御ともにはなか／＼つかうまつらし御うしろみをとてこの君は内
にさふらひ給ふ中宮の御かたにまいり給つれば宮はいて給ぬなりあさましくい
とをしき御さまかないかに人みたてまつるらむうへきこしめしてはいさめきこ
えぬかいふかひなきとおほしの給ふこそわりなけれとの給あまたみやたちのか
くおとなひと、のひ給へと大宮はいよ／＼わかくおかしきけはひなんまさり給
ける女一の宮もかくそおはしますへかめるいかならむおりにかはかりにてもも
のちかく御こゑをたにき、たてまつらむとあはれとおほゆすいたる人のおほゆ
ましき心つかふらむもかうやうなる御なからひのさすかにけとをからすிரいた
ちて心になはぬおりの事ならむかしわか心のやうにひか／＼しき心のたくひ
やは又世にあむへかめるそれに猶うこきそめぬるあたりはえこそおもひたえね
などと思ひる給へるさふらふかきりの女はうのかたち心さまいつれとなくわろひ
たるなくめやすくとりとりにおかしきなかにあてにすくてめにとまるあれと
さらに／＼みたれそめしの心にていつきすくにもてなし給へりことさらにみえ
しらかふ人もありおほかたはつかしけにもてしつめ給へるあたりなれはうはへ
こそ心はかりもてしつめたれ心／＼なるよの中なりければいろめかしけにす、
みたるしたの心もりてみゆるもあるをさま／＼におかしくもあはれにもあるか
などたちでもゐてもた、つねなきありさまを思ありき給かしこには中納言殿の
こと／＼しけにいひなし給へりつるを夜ふくるまでおはしまさて御ふみのある
をされはよとむねつふれておはするによなちかくなりてあらましき風のきほ
ひにいともなまめかしきよらにてにほひおはしたるもいか、おろかにおほえ
給はむさうしみもいさ、かうちなひきて思しり給ふことあるへしいみしくおか
しけにさかりとみえてひきつくろひ給へるさまはましてたくひあらしはやとお
ほゆさはかりよき人をおほくみ給ふ御めにたにけしうはあらすとかたちよりは
しめておほくちかまさりしたりとおほさるれば山さとの老人ともはましてくち
つきにくけにうちゑみつ、かくあたらしき御ありさまをなのめなるきはの人の

みたてまつり給はましかはいかにくちをしからまし思ふやうなる御すくせとき
こえつゝひめ宮の御心をあやしくひかゝしくもてなし給をもときくちひそみ
きこゆさかりすきたるさまともにあさやかなる花の色ゝにつかはしからぬを
さしぬひつゝありつかすととりつくろひたるすかたもののつみゆるされたるもな
きをみわたされ給てひめ宮我もやうゝさかりすきぬる身そかしかゝみをみれ
はやせゝになりもて行をのかしゝはこの人ともゝわれあしとやはおもへるう
しろてはしらすかほにひたひかみをひきかけつゝいろとりたるかほつくりをよ
くしてうちふるまふめりわか身にてはまたいとあれかほとにはあらずめもはな
もなをしとおほゆるは心のなしにやあらむとしろめたくてみいたしてふし給
へりはつかしけならむ人にみえむことはいよゝかたはらいたくいまひとゝせ
ふたとせあらはおとろへまさりなむはかなける身のありさまをと御てつきの
ほそやかにかよはくあはれなるをさしいてゝも世中を思つゝけ給宮はありかた
かりつる御いとまのほとおほしめくらすに猶心やすかるましきことにこそは
とむねふたかりておほえ給けり大宮のきこえ給しさまなとかたりきこえ給て思
なからとたえあらむをいかなるにかとおほすな夢にてもをろかならむにかくま
てもまいりくましきを心のほとやいかゝとうたかひて思みたれ給はむか心くる
しさに身をすてゝなむつねにかくはえまとひありかしさるへきさまにてちかく
わたしたてまつらむといとふかくきこえ給へとたえまあるへくおほさるらむは
をとにきゝし御心のほとしるへきにやと心をかれてわか御ありさまからさま
ゝものなけかしくてなむありけるあけ行ほどのそらにつまとおしあけ給ても
ろともにいさなひいてゝみ給へはきりわたれるさま所からのあはれおほくそひ
てれいのしはつむ舟のかすかに行かふあとのしらなみめなれすもあるすまゐの
さまかなというなる御心にはおかしくおほしなさる山のはのひかりやうゝみ
ゆるに女君の御かたちのまほにうつくしけにてかきりなくいつきすへたらむひ
め宮もかはかりこそはおはすへかめれ思なしのわかゝたさまのいといつくしき
そかしこまやかなるにほひなとうちとけてみまほしくなかゝなる心ちす水の
をとなひなつかしからすうちはしのいともふりてみえわたさるゝなときは
れゆけはいとゝあらましきしのわたりをかゝる所にいかてとしをへたまふら
むなとうち涙くみ給へるをいとはつかしときゝ給ふおとこの御さまのかきりな
くなまめかしきよらにてこの世のみならずきりたのめきこえ給へはおもひ
よらさりしことゝは思なから中ゝかのめなれたりし中納言のはつかしさより
はとおほえ給かれはおもふかたことにていといたくすみたるけしきのみえにく

ゝはつかしけなりしによそにおもひきこえしはましてこよなくはるかにひとくたりかきいて給ふ御返事たにつゝましくおほえしをひさしくとたえ給はむは心ほそからむと思ならるゝもわれなからうたてと思ひしり給人くゝいたくこはつくりもよほしきこゆれは京におはしまさむほとはしたなからぬほとにといと心あはたゝしけにて心よりほかならむよかれを返くのたまふ

なかたえむものならなくにはしひめのかたしく袖やよはにぬらさんいてかてにたちかへりつゝやすらひたまふ

たえせしのわかたのみにやうちはしのはるけき中をまちわたるへきことに

はいてねとものなけかしき御けはひはかきりなくおほされけりわかき人の御心にしみぬへくたくひすくなけなるあさけの御すかたをみをくりてなこりとまれる御うつりかなとも人しれすものあはれなるはされたる御心かなけさそのものゝあやめみゆるほとにて人くゝのそきてみたてまつる中納言殿はなつかしくはつかしけなるさまそひ給へりける思なしのいまひとときはにやこの御さまはいとことになとめてきこゆみちすから心くるしかりつる御氣色をおほしいてつゝたちもかへりなまほしくさまあしきまておほせと世のきこえをしのひてかへらせ給ほとにえたはやすくもまきれさせ給はす御ふみはあくる日ことにあまたかへりつゝたてまつらせ給をろかにはあらぬにやと思なからおほつかなき日かすのつもるをいと心つくしにみしと思しものを身にまさりてこゝろくるしくもあるかなとひめ宮はおほしなけかるれといとゝこの君のおもひしつみ給はむによりつれなくもてなして身つからたに猶かゝる事思くはへしといよくふかくおほす中納言の君もまちとをにそおほすらむかしと思やりてわかあやまちにいとをしくて宮をきこえおとろかしつゝたえす御けしきをみ給にいとゐたくおもほしいれたるさまなればさりともとうしろやすかりけり九月十日のほとなれば野山のけしきもおもひやらるゝにしくれめきてかきくらしそらのむら雲おそろしけなる夕くれ宮いとゝしつ心なくなめ給ていかにせむと御心ひとつをいてたちかね給おりをしはかりてまいり給へりふるの山さといかならむとおとろかしきこえ給いとうれしとおほしてもろともにいさなひ給へはれいのひとつ御くるまにておはすわけいり給まゝにそまいてなめ給ふらむ心のうちいとゝをしはかれ給みちのほともたゝこの事の心くるしきをかたらひきこえ給ふたそかれ時のいみしく心ほそけなるにあめはひやゝかにうちそゝきて秋はつるけしきのすこきにうちしめりぬれ給へるにほひとものは世のものにゝすえむにてうちつれ給へるを山かつともはいかゝ心まとひもせさらむ女はらひころうちつふやきつる

なこりなくえみさかえつゝおましひきつくろひなとす京にさるへき所くに行
ちりたるむすめともめいたつ人三人たつねよせてまいらせたりとしころあな
つりきこえける心あさき人ゑめつらかなるまらうとゝ思おとろきたりひめ宮も
おりうれしく思きこえ給ふにさかしら人のそひ給へるそはつかしくもありぬへ
くなまわつらはしくおもへと心はへののとかにものふかくものし給をけに人は
かくはおはせさりけりとみあはせ給にありかたしと思しらる宮を所につけては
いとことにかしつきいれたてまつりてこの君はあるしかたに心やすくもてなし
給ものからまたまらうとゐのかりそめなるかたにいたしはなち給へれはいとか
らしと思給へりうらみ給もさすかにゐとをしくてもものこしにたいめむし給ふた
はふれにくゝもあるかなかくてのみやといみしくうらみきこえ給やうくこと
はりしり給にたれと人の御うへにても物をいみしく思しつみ給ていとゝかゝる
かたをうきものに思はてゝ猶ひたふるにいかてかくうちとけしあはれとおもふ
人の御心もかならずつらしと思ぬへきわさにこそあめれわれも人もみおとさす
心たかはてやみにしかなどおもふ心つかひふかくし給へり宮の御ありさまなど
もとひきこえ給へはかすめつゝされはよとおほしくの給へはいとをしくておほ
したる御さまけしきをみありくやうなとかたりきこえ給ふれいよりは心うつく
しくかたらひてなをかくもの思ひくはふるほとすこし心ちもしつまりてきこえ
むとの給ふ人にくゝけとをくはもてはなれぬものからさうしのかためもいとつ
よししゐてやふらむをはつらくいみしからむとおほしたれはおほさるゝやうこ
そはあらめかるくしくことさまになひき給ことはたよにあらしと心のとかな
る人はさいへといとよく思しつめ給たゝいとおほつかなくものへたてたるなむ
むねあかぬ心ちするをありしやうにてきこえむとせめ給へとつねよりもわかお
もかけにはつるころなれはうとましとみ給てむもさすかにくるしきはいかなる
にかとほのかにうちわらひ給へるけはひなとあやしくなつかしくおほゆかゝる
御心にたゆめられたてまつりてつゐにいかなるへき身にかとなけきかちにて
れいのとを山とりにてあけぬ宮はまたゝひねなるらむともおほさて中納言のあ
るしかたに心のとかなるけしきこそうらやましけれとの給へは女君あやしとき
ゝ給わりなくしておはしましてほとなくかへり給るかあかすくるしきにみやもの
をいみしくおほしたり御心のうちをしり給はねは女かたには又いかならむ人わ
らへにやと思なけき給へはけに心つくしにくるしけなるわさかなとみゆ京にも
かくろへてわたり給へき所もさすかなし六条院には左のおほいのかたつか
たにはすみ給てさはかりいかてとおほしたる六の君の御ことをおほしよらぬに

なまうらめしと思きこえ給ふへかめりすきくしき御さまとゆるしなくそしり
きこえ給てうちわたりにもうれへきこえ給ふへかめれはいよくおほえなくて
いたしすえ給はむもは、かることとおほかりなへてにおほす人のきは、宮つ
かへのすちにて中く心やすけなりさやうのなみくにはおほされすもし世中
うつりてみかときさいのおほしをきつるま、にもおはしまさは人よりたかきさ
まにこそなさめなとた、いまはいとはなやかに心にか、り給へるま、にもてな
さむかたなくくるしかりけり中納言は三条の宮つくりはて、さるへきさまにて
わたしたてまつらむとおほすけにた、人は心やすかりけりかくいと心くるしき
御けしきながらやすからすしのひ給ふからにかたみに思なやみ給へるめるも心
くるしくてしのひてかくかよひ給よしを中宮などにも、らしきこしめさせてし
はしの御さはかれはいとをしくとも女かたの御ためはとかもあらしいとかくよ
をたにあかし給はぬくるしけさよいみしくもてなしてあらせたてまつらはやな
と思てあなちにもかくろへす衣かへなとはかくしくたれかはあつかふらむ
などおほして御丁のかたひらかへしろなと三条の宮つくりはて、わたり給はむ
心まうけにしをかせ給へるをまつさるへきようなむなどいとしのひてきこえ給
てたてまつれ給さまくなる女はうのさうそく御めのとなにも給ひつ、わ
さともせさせ給ひけり十月一日ころあしろもおかしきほとならむとそ、のかし
きこえ給てもみち御らんすへく申給ふしたしき宮人とも殿上人のむつましくお
ほすかきりいとしのひてとおほせと所せき御いきほひなれはをのつから事ひろ
こりて左のおほいとの、宰相中将まいり給さてはこの中納言殿はかりそかむた
ちめはつかふまつり給ふた、人はおほかりかしこにはろくなかやとりし給は
むをさるへきさまにおほせさきのはるも花みにたつねまいりこしこれかれか、
るたよりにことよせてしくれのまきれにみたてまつりあらはすやうもそ侍など
こまやかにきこえ給へりみすかけかへこ、かしこかきはらひいはかくれにつも
れる紅葉のくちはすこしはるけやり水のみ草はらはせなとそし給よしあるくた
物さかな、とさるへき人なともたてまつれ給へりかつはゆかしけなれといか
、はせむこれもさるへきにこそはと思ゆるして心まうけし給へりふねにてのほ
りくたりおもしろくあそび給もきこゆほのくありさまみゆるをそなたにたち
いて、わかき人ゝみたてまつるさうしみの御ありさまはそれとみわかねともも
みちをふきたるふねのかさりのにしきとみゆるにこゑくふきいつるもの、ね
とも風につけておとろくしきまておほゆよ人のなひきかしつきたてまつるさ
まかくしのひ給へるみちにもいとことにつくしきのみ給にもけにたなはたは

かりにてもかゝるひこほしの光をこそまちいてめとおほえたりふみつくらせ給へき心まうけにはかせなどもさふらひけりたそかれ時に御ふねさしよせてあそひつゝふみつくり給もみちをうすくこくかさして海仙楽といふ物をふきてをのくゝ心ゆきたるけしきなるに宮はあふみのうみの心ちしてをちかた人のうらみいかにとのみ御心そらなり時につけたるたいいたしてうそふきすしあへり人のまよひすこししつめておほせむと中納言もおほしてさるへきやうにきこえ給ほとに内より中宮のおほせ事にて宰相の御あにの衛門督ことくしきすいしんひきつれてうるはしきさましてまいり給へりかうやうの御ありきはしのひ給ふとすれとをのつからことひろこりてのちのためしにもなるわさなるをおもくしき人数あまたもなくてにはかにおはしましにけるをきこしめしおとろきて殿上人あまたくしてまいりたるにはしたなくなりぬ宮も中納言もくるしとおほしてものゝけうもなくなりぬ御心のうちをはしらすえひみたれあそひあかしつけふはかくてとおほすにまた宮の大夫さらぬ殿上人などあまたゝてまつり給へり心あはたゝしくくちおしくてかへりたまはむそらなしかしこには御ふみをそたてまつれ給おかしやかなることなくいとまめたちておほしけることゝもをこまくゝとかきつつ給へれと人めしけくさはかしからむにとて御かへりなしかすならぬありさまにてはめてたき御あたりにましらむかひなきわさかなといとゝおほししり給よそにてへたゝるつき日はおほつかなさもことはりにさりとものなくさめ給をちかきほとにのゝしりおはしてつれなくすぎ給ひなむつらくもくちおしくも思みたれ給宮はましていふせくわりなしとおほすことかきりなしあしろのひをも心よせたてまつりていろくこの葉にかきませもてあそふをしも人などはいとおかしきことにおもへれは人にしたかひつゝこゝろゆく御ありきに身つからの御心ちはむねのみつとふたかりてそらをのみなかめ給ふにこのふる宮のこすゑはいとことにおもしろくときは木にはひまされるつたの色なども物ふかけにみえてとをめさへすこけなるを中納言の君もなかゝたのめきこえけるをうれはしきわさかなとおほゆこそのはる御ともなりし君たちははなの色を思いてゝをくれてこゝになかめ給らむ心ほそさをいふかくしのひくにかよひ給ふとほのきゝたるもあるへし心しらぬもましりておほかたにとやかくやと人の御うへはかゝる山かくれなれとをのつからきこゆるものなれはいとおかしけにこそものし給なれさうのことしやうすにてこ宮のあけくれあそひならはし給けれはなとくちくゝいふ宰相中将

いつそやも花のさかりにひとめみし木のもとさへや秋はさひしきあるしか

たと思ていへは中納言

さくらこそ思しらすれさきにほふ花ももみちもつねならぬよを衛門督

いつこより秋は行けむやまさとの紅葉のかけはすきうきものを宮大夫

みし人もなき山さとの岩かきに心なくもはへるくす哉なかにおいしらひ

てうちなき給みこのわかくおはしけるよの事なと思ひいつるなめり宮

秋はてゝさひしさまさる木のもとを吹なすくしそみねの松かせとていとい

たくなみたくみ給へるをほのかにせる人はけにふかくおほすなりけりけふのた

よりをすくし給心くるしさとみたてまつる人あれとことくしくひきつゝきて

えおはしましよらすつくりけるふみのおもしろき所くうちすしやまとうたも

ことにつけておほかれとかうやうのえひのまぎれにましてはかくしきことあ

らむやはかたはしかきとゝめてたにみくるしくなむかしこにはすき給ぬるけは

ひをとをくなるまできこゆるさきのこゑくたゝならすおほえ給心まうけしつ

るひとくもいとくちおしと思へりひめ宮はましてなをゝとにきくつき草のい

ろなる御心なりけりほのかに人のいふをきけはおとこといふものはそらことを

こそいとよくすなれおもはぬ人をおもふかほにとりなすことのはおほかるもの

とこの人かすならぬ女はらのむかしものかたりにいふをさるなをなをしきなか

にこそはけしからぬこゝろあるもましろめなに事もすちことなるきはになり

ぬれは人のきゝおもふことつゝましくところせかるへきものとおもひしはさし

もあるましきわさなりけりあためき給へるやうにこ宮もきゝつたへ給てかやう

にけちかきほとまてはおほしよらさりしものをあやしきまで心ふかけにの給ひ

わたり思のほかにもたてまつるにつけてさへ身のうさを思ひそふるかあちきな

くもあるかなかくみをとるする御心をかつはかの中納言もいかに思給らむこゝ

にもことにはつかしけなる人はうちましらねとをのくおもふらむか人わらへ

におこかましきことゝ思みたれ給に心ちもたかひていとなやましくおほえ給さ

うしみはたまさかにたいめむし給ときかきりなくふかきことをたのめちきり給

つれはさりともしよなうはおほしかはらしとおほつかなきもわりなきさはりこ

そはものし給らめと心のうちに思なくさめ給かたありほとへにけるか思ひぬれ

られ給はぬにしもあらぬに中くにてうちすき給ぬるをつらくもくちをししくも

おもほゆるにいとゝものあはれなりしのひかたき御けしきなるを人なみくにお

もてなしてれいの人めきたるすまいならはかうやうにもてなし給ふましきをな

とあね宮はいとゝしくあはれとみたてまつり給ふわれも世になからへはかうや

うなることみつへきにこそはあめれ中納言のとさまかうさまにいひありき給も

人の心をみむとなりけり心ひとつにもてはなれておもふともこしらへやるかきりこそあれある人のこりすまにかゝるすちのことをのみいかでと思ためれは心よりほかにつゐにもてなされぬへかめりこれこそはかへすゝさる心してよをすくせとの給ひをきはかゝることもやあらむのいさめなりけりさもこそはうき身ともにてさるへき人にもをくれたてまつらめやうのものと人わらへなることをそふるありさまにてなき御かけをさへなやましたてまつらむかいみしさなるをわたにさるもの思ひにしつまずみなどいふかゝらぬさきにいかてなくなりなむとおほししつむにこゝちもまことにくるしければものもつゆはかりまいらすたゝなからむのちのあらましことをあけくれ思つゝけ給にも心ほそくてこの君をみたてまつり給もいと心くるしくわれにさへをくれたまひていかにいみしくなくさむかたならむあたらしくおかしきさまをあけくれのみのものにていかて人ゝしくもみなしたてまつらむと思ひあつかふをこそ人しれぬ行ききのたのみにも思ひつれかきりなき人にももし給ともかはかり人わらへなるめをみてむ人の世中にたちましりれいの人さまにてへ給はんはたくひすくなく心うからむなとおほしつゝくるにいふかひもなくこの世にはいさゝか思なくさむかたなくてすきぬへき身ともなりけりと心ほそくおほす宮はたちかへりれいのやうにしのひてといてたち給けるを内にかゝる御しのひことにより山さとの御ありきもゆくりかにおほしたつなりけりかろゝしき御ありさまと世人もしたにそしり申なりと衛門督のもらし申給ければ中宮もきこしめしなけきうへもいとゝゆるさぬ御けしきにておほかた心にまかせ給へる御さとすみのあしきなりとさきひしきことゝもいてきて内につとさふらはせたてまつり給左のおほい殿の六の君をうけひかすおほしたる事なれとおしたちてまいらせ給へくみなさためらる中納言殿きゝ給てあいなくものを思ありき給わかあまりことやうなるそやさるへき契やありけむみこのうしろめたしとおほしたりしさまもあはれにわすれかたくこの君たちの御ありさまけはひもことなる事なくて世におとろへ給はむことのおしくもおほゆるあまりに人ゝしくもてなさはやとあやしきまでもてあつかはるゝに宮もあやにくにとりもちてせめ給しかはわかおもふかたはことなるにゆつらるゝありさまもあいなくてかくもてなしてしを思へはくやしくもありけるかないつれもわか物にてみたてまつらむにとかむへき人もなしかしととりかへすものならねとおこかましく心ひとつに思ひみたれ給宮はまして御こゝろにかゝらぬおりなくこひしくうしろめたしとおほす御心につきておほす人あらはこゝにまいらせてれいさまにのとやかにもてなし給へすことに思きこえ

給へるにかるひたるやうに人のきこゆへかめるもいとなむくちをしきと大宮は
あけくれきこえ給しぐれいたくしてのとやかなる日女一宮の御かたにまいり給
つれば御まへに人おほくもさふらはすしめやかに御ゑなむと御らんするほと
り御木丁はかりへたて、御物かたりきこえ給かきりもなくあてにけたかきもの
からなよひかにおかしき御けはひをとしころふたつなきものに思ひきこえ給て
又この御ありさまになすらふ人よにありなむや冷泉院のひめ宮はかりこそ御お
ほえのほとうちくの御けはひも心にくきこゆれとうちいてむかたもなくお
ほしわたるにかの山さと人はらうたけにあてなるかたのおとりきこゆましきそ
かしなとまつ思いつるにいと、こひしくてなくさめに御ゑどものあまたちりた
るをみ給へはおかしけなる女ゑどものこひするおとこのすまゐなとかきませ山
さとのおかしきゑゑなと心く世のありさまかきたるをよそへらるゝ事お
ほくて御めとまりたまへはすこしきこえ給てかしこへたてまつらむとおほすさ
い五かものかたりをかきていもうとにきむをしへたる所の人のむすはんといひ
たるをみていか、おほすらんすこしちかくまいりより給ていにしへの人もさる
へきほどはへたてなくこそならはして侍れいとうとくしくのみもてなさせ
給こそとしのひてきこえ給へはいかなるゑにかとおほすにおしまきよせて御ま
へにさしいれ給へるをうつふして御らむする御くしのうちなひきてこほれいて
たるかたそは、かりほのかにみたてまつり給るあかすめてたくすこしも、のへ
たてたる人と思きこえましかはとおほすにしのひかたくて

わか草のねみむものとはおもはねとむすほ、れたる心ちこそすれ御まへな

る人々はこの宮をはことにはちきこえてもの、うしろにかくれたりことしもこ
そあれうたてあやしとおほせはものもの給はすことはりにてうらなくものをと
いひたるひめ君もされてにく、おほさるむらさきのうへのとりわきてこのふた
所をはならはしきこえ給しかはあまたの御なかにへたてなく思かはしきこえ給
へり世になくかしつき、こえ給てさふらふ人々もかたほにすこしあかぬところ
あるははしたなけなりやむことなき人の御むすめなともいとおほかり御心のう
つろひやすきはめつらしき人々にはかなくかたらひつきなとし給つゝかのわた
りをおほしわするゝおりなきものからをとつれ給はて日ころへぬまちきこえ給
ところはたえまとをき心ちして猶かくなめりと心ほそくなかめ給ふに中納言お
はしたりなやましけにし給とき、て御とふらひなりけりと心ちまとふはかり
の御なやみにもあらねとことつけてたいめむし給はすおとろきなからはるけき
ほとをまいりきつるを猶かのなやみ給ふらむ御あたりちかくとせちにおほつか

なかりきこえ給へはうちとけてすまゐ給へるかたのみすのまへにいたてまつ
るいとかたはらいなきわざとくるしかり給へとけにくゝはあらで御くしもたけ
御いらへなときこえ給宮の御心もゆかておはしすきにしありさまなとかたりき
こえ給てのとかにおほせ心いられてなうらみきこえ給そなをしへきこえ給
へはこゝにはともかくもきこえたまはさめりなき人の御いさめはかゝることに
こそとみ侍はかりなむいとおしかりけるとてなき給気色なりいと心くるしくわ
れさへはつかしき心ちして世中はとてもかくてもひとつさまにてすすことか
たくなむ侍をいかなる事をも御らんししらぬ御こゝろともににはひとへにうらめ
しなとおほすこともあらむをしめておほしのとめようしろめたくはよにあらし
となん思はへるなど人の御うへをさへあつかふもかつはあやしくおほゆよる

くはましていとくるしけにし給ければうとき人の御けはひのちかきもなかの
宮のくるしけにおほしたれば猶れいのあなたにと人々きこゆれとましてかくわ
つらひ給ほとのおほつかなさと思のまゝにまいりきていたしはなち給へれはい
とわりなくなむかゝるおりの御あつかひもたれかははかしくつかうまつる
など弁のおもとにかたらひ給てみす法ともはしむへきことの給いとみくるしく
ことさらにもいとはしき身をときゝ給へと思くまなくのたまはむもうたてあれ
はさすかになからへよと思ひ給へる心はえもあはれなり又のあしたにすこしも
よろしくおほさるやきのふはかりにてたにきこえさせむとあれはひころふれは
にやけふはいとくるしくなむさらはこなたにといひいたし給へりいとあはれに
いかにももし給へきにかあらむありしよりはなつかしき御けしきなるもむねつ
ふれておほゆれはちかくよりてよろつのことをきこえ給てくるしくてえきこえ
すすこしためらはむほとにといてとかすかにあはれなるけはひをかきりなく心
くるしくてなけきる給へりさすかにつれくゝとかくておはしかたければいとう
しろめたけれとかへり給かゝる御すまゐは猶くるしかりけりところさり給にこ
とよせてさるへき所にうつろはしたてまつらむなときこえをきてあさりにも御
いのり心にいるへくのたまひしらせていて給ぬこの君の御ともなる人のいつし
かところなるわかき人をかたらひよりたるなりけりをのかしゝの物かたりにか
の宮の御しのひありきせいせられ給て内にのみこもりおはしますひたりのお
ほいとゝ君をあはせてまつり給へるなるをむなかたはとしころの御ほいな
れはおほしとゝこほる事なくてとしのうちにありぬへかなり宮はしふくにお
ほして内わたりにもたゝすきかましき事に御心をいれてみかときさいの御いま
しめにしつまり給へくもあらさめりわか殿こそなをあやしく人にゝ給はすあま

りまめにおはしまして人にはもてなやまれ給へこゝにかくわたり給のみなむめ
もあやにおほろけならぬことゝ人申などかたりけるをさこそいひつれなど人々
の中にてかたるをきゝ給にいとゝむねふたかりていまはかきりにこそあなれや
むことなきかたにさたまり給はぬなをさりの御すさひにかくまておほしけむを
さすかに中納言などのおもはんとおほしてことのはのかきりふかきなり
けりと思なし給にともかくも人の御つらさは思ひしらすいとゝ身のをき所のな
き心ちしてしほれふし給へりよはき御心ちはいとゝ世にたちとまるへくもおほ
えすはつかしけなる人々にはあらねと思らむところのくるしければきかぬやう
にてねたまへるを中の君ものおもふ時のわざときゝしうたゝねの御さまのいと
らうたけにてかいなをまくらにてね給へるに御くしのたまりたるほとなどあり
かたうつくしけなるをみやりつゝおやのいさめしことのはもかへすゝおも
ひいてられ給てかなしければつみふかゝなるそこにはよもしつみ給はしいつこ
にもゝおはすらむかたにむかへ給ひてよかくいみしくものおもふ身ともをう
ちすて給て夢にたにみえ給はぬよと思つゝけ給ゆふくれのそらのけしきいとす
こくしくれてこのしたふきはらふ風のをとなどにたとへんかたなくきしかた行
さきおもひつゝけられてそひふし給へるさまあてにかきりなくみえたまふしろ
き御そにかみはけつることもし給はてほとへぬれとまよふすちなくうちやられ
てひころにすこしあをみ給へるしもなまめかしさまさりてなかめいたし給へる
まみひたいつきのほともみしらん人にみせまほしひるねの君風のいとあらしに
おとろかされておきあかり給へり山ふきうす色などはなやかなる色あひに御か
ほはことさらにそめにほはしたらむやうにいとおかしくはなはなとしていさゝ
か物おもふへきさまもし給へらすこ宮の夢にみえ給つるいとものおほしたるけ
しきにてこのわたりにこそほのめき給つれとかたり給へはいとゝしくかなしさ
そひてうせ給てのちいかて夢にもみたてまつらむとおもふをさらにこそみたて
まつらねとてふた所なからいみしくなき給このころあけくれ思いてたてまつれ
はほのめきもやおはすらむいかておはすらむ所にたつねまいらむつみふかけな
る身ともにてとのちのよをさへ思ひやり給人の国にありけむかうのけふりそい
とえまほしくおほさるゝあとくらくなるほどに宮より御つかひありおはすこ
しもの思ひなくさみぬへし御かたはとみにもみ給はす猶心うつくしくおひらか
なるさまにきこえ給へかくてはかなくもなり侍なはこれよりなこりなきかたに
もてなしきこゆる人もやいてこむとうしろめたきをまれにもこの人の思ひいて
きこえ給はむにさやうなるあるましき心つかふ人はえあらしと思へはつらきな

からなむたのまれ侍ときこえ給へはをくらさむとおほしけるこそいみしく侍れ
といよ／＼かほをひきいれ給かきりあればかた時もとまらしと思しかとなから
ふるわさなりけりと思侍そやあすしらぬよのさすかになけかしきもたかためお
しきいのちにかはとておほとなふらまいらせてみ給ふれいのこまやかにかけ給
て

なかむるはおなし雲井をいかなれはおほつかなさをそふる時雨そかくそて
ひつるなといふこともやありけむみ、なれにたるをなをあらしこと、みるにつ
けてもうらめしさまさり給さはかり世にありかたき御ありさまかたちをいと、
いかて人にめてられむとこのましくえむにもてなし給へればわかき人の心よせ
たてまつり給はむことはりなりほとふるにつけてもこひしくさはかりところせ
きまで契をき給しをさりともしとかくてはやましと思なをす心そつねにそひけ
る御返こよひまいりなんときこゆれはこれかれそ、のかしきこゆれはた、ひと
ことなん

あられふるみ山のさとはあさ夕になかむる空もかきくらしつ、かくいふは
神な月のつこもりなりけり月もへた、りぬるよと宮はしつ心なくおほされてこ
よひこよひとおほしつ、さはりおほみなるほどに五節なとくいてきたるとし
にて内わたりいまめかしくまきれかちにてわさともなけれとすくい給ほとにあ
さましくまちとをなりはかなく人をみ給につけてもさるは御心にはなる、をり
なし左のおほいと、わたりの事大宮も猶さるのとやかなる御うしろみをまう
け給てそのほかにたつねまほしくおほさる、人あらはまいらせておも／＼しく
もてなし給へときこえ給へとしはしさ思ふたまふるやうなむきこえいなひ給て
まことにつらきめはいかてかみせむなとおほす御心をしり給はねは月日にそへ
てものをのみおほす中納言もみしほとよりはかろひたる御心かなさりともしと
もひきこえけるもいとをしく心からおほえつ、おさ／＼まいり給はすやまさ
とにはいかに／＼ととふらひきこえ給この月となりてはすこしよろしくおはす
と、給けるにおほやけたくしものさはかしきころにて五六日人もたてまつれ
給はぬにいかならむとうちおとろかれたまいてわりなきことのしけさをうちす
て、まて給すほうはおこたりはて給までとのたまひをきけるをよろしくなり
けりとしてあさりをもかへし給ひければいと人すくなにてれるの老人いてきて御
ありさまきこゆそこはかといたきところもなくおとろ／＼しからぬ御なやみに
ものをなむさらにきこしめさぬもとより人に、給はすあえかにおはしますうち
にこのみやの御ことゐてきにしのちいと、ものおほしたるさまにてはかなき御

くたものをたに御らむしいれさりしつものにやあさましくよはくなり給てさらにたのむへくもみえ給はすよに心うく侍ける身のいのちのなかさにてかゝることをみたてまつればまついかてさきたちきこえむと思給へゐり侍といひもやらすなくさまことはりなり心うくなとかゝともつけ給はさりける院にも内にもあさましくことしけきころにて日ころもえきこえさりつるおほつかなさとりしかたにいり給ふ御まくらかみちかくてもものきこえ給へと御こゑもなきやうにてえいらへたまはすかくおもくなり給までたれもくつけたまはさりけるかつらくもおもふにかひなきことゝうらみてれいのあさりおほかた世にしるしありときこゆる人のかきりあまたさうし給みすほうと経あくる日よりはしめさせ給はむとてとの人あまたまいりつとひかみしもの人たちさはきたれは心ほそさのなこりなくたのもしけなりくれぬれはれいのあなたにときこえて御ゆつけなとまいらむとすれとちかくてたにみたてまつらむとてみなみのひさしはさうの座なればひんかしおもてのいますこしちかきかたに屏風なとたてさせていりゐ給なかの宮くるしとおほしたれとこの御中を猶もてはなれたまはぬなりけりとみなおもひてうとくもえもてなしへたてす初夜よりはしめて法花経をふたむによませ給ふこゑたうときかきり十二人していとたうとし火はこなたのみなみのまにともしてうちはくらきに木丁をひきあけてすこしすへり入てみたてまつり給へは老人とも二三三人そさふらふなかの宮はふとかくれ給ぬれはいと人すくなに心ほそくてふし給へるをなとか御こゑをたにきかせたまはぬとて御てをたらへておとろかしきこえ給へは心ちには思なからものいふかいとくるしくてなん日ころをとつれ給はさりつれはおほつかなくてすき侍ぬへきにやとくちをしここそ侍つれといきのしたにの給かくまたれたてまつるほとまてまいりこさりけることゝてさくりもよゝとなき給御くしなとすこしあつくそおはしけるなにつみなる御心ちにか人のなけきおふこそかくあむなれと御みゝにさしあてゝものをおほくきこえ給へはうるさうもはつかしうもおほえてかをゝふたき給へるをむなしくみなしていかなる心ちせむとむねもひしけておほゆひころみたてまつり給つらむ御心ちもやすからすおほされつらむこよひたに心やすくうちやすませ給へとのゐ人さふらふへしときこえ給へはうしろめたけれとさるやうこそはとおほしてすこししそき給へりひたおもてにはあらねとはひよりつゝみたてまつり給へはいとくるしくはつかしけれとかゝるへき契こそはありけめとおほしてこよなうのとかにうしろやすき御心をかのかたつかたの人にみくらへたてまつり給へはあはれとも思ひしられにたりむなしくなりなむのちのおもひて

にも心こはくおもひくまなからしとつゝみ給てはしたなくもえをしはなち給は
すよもすから人をそゝのかして御ゆなとまいらせたてまつり給へとつゆはかり
まいるけしきもなしいみしのわさやいかにしてかはかけとゝむへきとゐはむか
たなくおもひい給へりふたむ経のあか月かたのゐかはりたるこゑのいとたうと
きにあさりもよひにさふらひてねふりたるうちおとろきてたらによむ老かれに
たれといとくうつきてたのもしうきこゆいかゝこよひはおはしましつらむなと
きこゆるついてにこ宮の御ことなど申いてゝはなしはくうちかみていかなる
所におはしますらむさりとすゝしきかたにそと思ひやりたてまつるをさいつ
ころの夢になむみえおはしましゝそくの御かたちにて世中をふかういとひはな
れしかは心とまることなかりしをいさゝかうち思ひし事にみたれてなんだゝし
はしねかひのところをへたゝれるをおもふなんといとくやしきすゝむるわさせよ
といとさたかにおほせられしをたちまちにつかうまつるへきことのおほえ侍ら
ねはたへたるにしたかひておこなひし侍法師はら五六人してなにかしの念仏な
んつかうまつらせ侍るさては思給へえたること侍りて常不輕をなむつかせはへ
るなど申にきみもいみしうなき給かの世にさへさまたけきこゆらんつみのほと
をくるしき御心ちにもいとゝきえいりぬはかりおほえ給いかてかのまたさたま
り給はさらむさきにまでゝおなし所にもときゝふし給へりあさは事すくなに
てたちぬこのさう不輕そのわたりのさとく京までありきけるをあか月のあら
しにわひてあさりのさふらふあたりをたつねて中門のもとにゐていとたうとく
つく廻向のすゑつかたの心はえいとあはれなりまらうともこなたにすゝみたる
御心にてあはれしのはれ給はすなかの宮せちにおほつかなくしておくのかたなる
木丁のうしろにより給へるけはひをきゝ給てあさやかにゐなをり給て不輕のこ
ゑはいかゝきかせ給ひつらむおもくしきみちにはおこなはぬことなれとたう
とくこそ侍れとて

霜さゆるみきはの千鳥うちわひてなくねかなしきあさほらけかなことはの
やうにきこえ給つれなき人の御けはひにもかよひて思ひよそへらるれといらへ
にくゝて弁してそきこえ給ふ

あかつきの霜うちらはひ鳴ちとりものおもふ人の心をやるにつかはしか
らぬ御かはりなれとゆへなからすきこえなすかやうのはかなしこともつゝまし
けなる物からなつかしうかひあるさまにとりなし給ふものをいまはとてわかれ
なはいかなる心ちせむとまとひ給宮の夢にみえ給けむさまおほしあはするにか
う心くるしき御ありさまともをあまかけりてもいかにみ給らむとおしはかられ

ておはしもしみてらにも御す経せさせ給所くのいのりのつかひいたしたて
させ給おほやけにもわたくしにも御いとまのよし申給てまつりはらへよろつに
いたらぬ事なくし給へとももの、つみめきたる御やまゐにもあらさりければなに
のしるしもみえすみつからもたいらかにあらむともほとけをもねむしたまは、
こそあらめなをかゝるつゐてにいかてうせなむこの君のかくそゐてのこりなく
なりぬるをいまはもてはなれむかたなしさりとてかうをろかならすみゆめる心
はえのみをとりしてわれも人もみえむか心やすからすうかるへきこともしいの
ちしゐてとまらはやまゐに事つけてかたちをもかへてむさてのみこそなかき心
をもかたみにみはつへきわさなれと思しみ給てとあるにてもかゝるにてもいか
てこのおもふこととしてむとおほすをさまでさかしきことはえうちいて給はてな
かの宮に心ちのいよくたのもしけなくおほゆるをいむことなんいとしるしあ
りていのちのふる事とき、しをさやうにあさりにの給へときこえ給へはみなな
きさはきていとあるましき御事なりかくはかりおほしまとふめる中納言殿もい
か、あえなきやうにおもひきこえ給はむとにけなき事に思てたのもし人にも申
つかねはくちをしうおほすかくこもりゐ給つればき、つきつ、御とふらひにふ
りはえものし給人もありをろかにおほされぬこと、み給へは殿人したしきけい
しなどはをのくよろつの御いのりをせさせなけき、こゆとよのあかりはけふ
そかしと京思ひやり給風いとふ吹て雪のふるさまあはた、しうあれまとふみや
こにはいとかうしもあらしかしと人やりならす心ほそうてうとくてやみぬへき
にやとおもふ契はつられけとらむへうもあらすなつかしうらうたけなる御も
てなしをた、しはしにてもれいになして思つること、も、かたらは、やとおも
ひつ、けてななめ給ひかりもなくてくれはてぬ

かきくもり日かけもみえぬおく山に心をくらすところにもある哉た、かくて
おはするをたのみにみな思きこえたりれいのちかきかたにゐ給へるにみ木丁な
とを風のあらはに吹なせはなかの宮おくにいり給みくるしけなる人ゝもか、や
きかくれぬるほどにいとちかうよりていか、おほさる、心ちに思ひのこすこと
なくねむしきこゆるかひなく御こゑをたにきかすなりにたれはいとこそわひし
けれをくらかし給は、いみしうつらからむとなく、きこえ給ふものおほえす
なりにたるさまなれとかほはいとよくかくし給へりよろしきひまあらはきこえ
まほしきことも侍れとた、きえいるやうにのみなり行はくちをしきわさにこそ
といとあはれと思給へるけしきなるにいよくせきと、めかたくてゆ、しうか
く心ほそけに思ふとはみえしとつ、み給へところゑもおしまれすいかなる契にて

かきりなく思ひきこえなからつらきことおほくてわかれたてまつるへきにかすこしうきさまをたにみせ給は、なむ思さますふしにもせむとまもれといよ／＼あはれけにあたらしくおかしき御ありさまのみみゆかいな、ともいとほそうなりてかけのやうによはけなるものからいろあひもかはらすしろうつくしけになよ／＼としてしろき御そものなよひかなるにふすまを、しやりてなかにみもなきひるなをふせたらむ心ちして御くしはいとこちたうもあらぬほとにうちやられたる枕よりおちたるきはのつや／＼とめてたうおかしけなるもいかになり給なむとするそとあるへき物にもあらさめりとみるかおしきことたくひなしこゝらひさしくなやみてひきもつくろはぬけはひの心とけすはつかしけにかきりなうもてなしさまよう人にもおほうまさりてこまかにみるまゝにたましるもしつまらむかたなしつゐにうちすて給なはよにしはしもとまるへきにもあらすいのちもしかきりありてとまるへうともふかき山にさすらへなむとすたゝいと心くるしうてとまり給はむ御ことをなん思きこゆるといらへさせたてまつらむとてかの御ことをかけ給へはかをかくし給へる御そてをすこしひきなをしてかくはかなかりける物を思ひくまなきやうにおほされたりつるもかひなければこのとまり給はむ人をおなしこと思ひきこえ給へとほのめかしきこえしにたかへ給はさらましかはうしろやすからましとこれのみなむうらめしきふしにてとりぬへうおほえ侍との給へはかくいみしうものおもふへき身にやありけんいかにも／＼ことさまにこの世を思かゝつらふかたの侍らさりつれば御おもむけにしたかひきこえすなりにしいまなむくやしく心くるしうもおほゆるされともうしろめたくなおもひきこえ給そなどこしらへていとくるしけにし給へはすほうのあさりとめしいれさせさま／＼にけむあるかきりしてかちまいらせさせ給ふわれも仏をねんせさせ給ふことかきりなし世中をことさらにいとひはなれねとすゝめ給ふ仏などのいとかくいみしき物はおもはせ給にやあらむみるまゝにものかくれ行やうにてきえはて給ぬるはいみしきわさかなひきとゝむへきかたなくあしすりもしつへく人のかたくなしとみむこともおほえすかきりとみたまつり給てなかの宮のをくれしとおもひまとひ給さまもことはりなりあるにもあらずみえ給をれいのさかしき女はらいまはいとゆゝしきことゝひきさけたてまつる中納言の君はさりともしとるかゝる事あらし夢かとおほして御となふらをちかうかゝけてみたてまつり給にかくし給かほもたゝねたまへるやうにてかはりたまへるところもなくうつくしけにてうちふし給へるをかくなからむしのからのやうにてもみるわさならましかはと思まとはるいまはの事ともするに御く

しをかきやるにさとうちにほひたるたゝありしなからのにほひになつかしうかうはしきもありかたうなにことにてこの人をすこしもなのめなりしと思ささむまことによの中を思すてはつるしるへならはおそろしけにうきことのかなしさもさめぬへきふしをたにみつさせ給へと仏を念し給へといと、思のとめむかたなくのみあれはいふかひなくてひたふるにけふりにたになしはてゝむともほしてとかくれいのさほうともするそあさましかりけるそらをあゆむやうにたゝよひつゝかきりのありさまさへはかなけにてけふりもおほくむすほゝれ給はすなりぬるもあえなしとあきれてかへり給ぬ御いみにこまれる人数おほくて心ほそさはすこしまきれぬへけれとなかの宮は人のみおもはんこともはつかしき身の心うさを思しつみ給て又なき人にみえ給宮よりも御とふらひいとしけくたてまつれ給おもはすにつくゝと思きこえ給へりしけしきもおほしなをらてやみぬるをおほすにいつき人の御ゆかりなり中納言かくよのいと心うくおほゆるついてにほいとけんとおほさるれと三条の宮のおほされむことにはゝかりこの君の御ことの心くるしさに思みたれてかのゝ給しやうにてかたみにもみるへかりける物をしたの心は身をわけ給へりともうつろふへくもおほえ給さりしをかう物思はせたてまつるよりはたゝうちかたらひてつきせぬなくさめにもみたてまつりかよはましものをなとおほすかりそめに京にもいて給はすかきたえなくさむかたなくてこもりおはするを世人もをろかならす思給へることゝまきゝて内よりはしめたてまつりて御とふらひおほかりはかなくてひころはすき行七日ゝの事ともいたうとくせさせ給つゝをろかならすけうし給へとかきりあれは御その色のかはらぬをかの御かたの心よせわきたりし人ゝのいとくろくきかへたるをほのみ給ふも

くれなゐにおつる涙もかひなきはかたみの色をそめぬなりけりゆるしいろのこほりとけぬかとみゆるをいとゝぬらしそへつゝなかも給ふさまいとなまめかしきよけなり人ゝのそきつゝみたてまつりていふかひなき御ことをはさる物にてこのとのゝかくならひたてまつりていまはとよそにおもひきこえむこそあたらしくくちをしけれおもひのほかなる御すくせにもおはしけるかなかくふかき御心のほとをかたゝゝにそむかせ給へるよとなきあへりこの御かたにはむかしの御かたみにいまはなに事もきこえうけ給はらむとなん思給ふるうとゝゝしくおほしへたつなときこえ給へとよろつの事うき身なりけりと物のみつゝましくてまたたいめむしものなときこえ給はすこの君はけさやかなるかたにいますすこしこめきけたかくおはするものからなつかしくにほひある心さまそおと

り給へりけるとにふれておほゆ雪のかきくらしふる日ひねもすになかめく
らして世の人のすさましきことにいふなるしはすの月夜のくもりなくさしいて
たるをすたれまきあけてみ給へはむかひのてらのかねのこゑ枕をそはたて、け
ふもくれぬとかすかなるひ、きをきゝて

をくれしと空行月をしたふかなつゐにすむへきこのよならねは風のいとは
けしければしとみをろさせ給によもの山のかゝみとみゆるみきはのこほり月か
けにいとおもしろし京のいゑのかきりなくとみかくもえかうはあらぬはやとお
ほゆわつかにいきいて、ものし給はましかはもろともにきこえましとおもひつゝ
くるそむねよりあまる心ちする

恋わひてしぬるくすりのゆかしきに雪の山にやあとをけなましなかななる

偈をしへむおにもかなことつけて身もなけむとおほすそ心きたなきひしり心な
りける人ゝちかくよひいて給て物かたりなとせさせ給けはひなどのいとあらま
ほしくのとやかに心ふかきをみたてまつる人ゝわかきは心にしめてめてたしと
思たてまつる老たるはたゝくちおしくいみしき事をいと、思ふ御心ちのおもく
ならせ給しこともたゝこの宮の御ことをおもはすにみたてまつり給て人わらへ
にいみしとおほすめりしをさすかにかの御かたにはかくおもふとしられたてま
つらしとたゝ御心ひとつによをうらみ給めりしほとにはかなき御くた物をもき
こしめしふれすたゝよりはりになむよはらせ給めりしうはへにはなにはかりこと
くしくものふかけにもてなさせ給はてしたの御心のかきりなくなにことも
おほすめりしにこ宮の御いましめにさへたかひぬることゝあいなう人の御うへ
をおほしなやみそめしなりときこえておりくゝの給しことなとかたりいてつゝ
たれもくゝなきまとふことつきせすわか心からあちきなきことをおもはせて
まつりけむ事ととりかへさまほしくなへての世もつらきにねんすをいとゝあは
れにし給てまどろむほとなくあかし給にまた夜ふかきほどの雪のけはひいとさ
むけなるに人ゝこゑあまたしてむまのをときこゆなに人かはかゝるさよ中に雪
をわくへきとたいとこたちもおとろき思えるに宮かりの御そにいたうやつれて
ぬれくゝいり給へるなりけりうちたゝき給さまさなゝるとき、給て中納言はか
くろへたるかたに入たまひてしのひておはす御いみは日かすのこりたりけれと
心もとなくおほしわひてよ一夜雪にまとはされてそおはしましけるひころのつ
らさもまきれぬへきほとなれとたいめむし給へき心ちもせずおほしなけきたる
さまのはつかしかりしをやかてみなをされ給はすなりにしもいまよりのちの御
心あらたまらむはかひなかるへく思しみてものし給へはたれもくゝいみしうこ

とはりをきこえしらせつゝものこしにてそひころのおこたりつきせすの給をつくくくときゝゐ給へるこれもいとあるかなきかにてをくれ給ふましきにやときこゆる御けはひの心くるしさをうしろめたういみしと宮もおほしたりけふは御身をすてゝとまり給ぬものこしならてといたくわひ給へといいますこし物おほゆるほとまで侍らはとのみきこえ給てつれなきを中納言もけしききゝ給てさるへき人めしいてゝ御ありさまにたかひて心あさきやうなる御もてなしのむかしもいまも心うかりける月ころのつみはさも思きこえ給ぬへきことなれとにくからぬさまにこそかうかへたてまつりたまはめかやうなる事またみしらぬ御心にてくるしうおほすらんなとしのひてさかしかり給へはいよくこの君の御心もはつかしくてえきこえ給はすあさましく心うくおはしけりきこえしさまをもむけにわすれ給けることゝをろかならすなけきくらし給へりよるのけしきいとゝけはしき風のをとに人やりならすなけきふしたまへるもさすかにてれいのものへたてゝきこえの給ちゝのやしろをひきかけて行さきなかきことをちきりきこえ給もいかてかくくちなれ給けむと心うけれとよそにてつれなきほどのうとましさよりはあはれに人の心もたをやきぬへき御さまを一かたにもえうとみはつましかりけりたゝつくくときゝて

きしかたを思ひいつるもはかなきを行すゑかけてなにたのむらんとほのかにの給なかくいふせう心もとなし

行すゑをみしかき物とおもひなはめのまへにたにそむかさなんなに事も

いとかうみるほとなきよをつみふかくなおほしないそとよろつにこしらへ給へと心ちもなやましくなむとていり給にけり人のみるらんもいと人わろくてなけきあかし給ふうらみむもことはりなるほとなれとあまりに人にくゝもとつらき涙のおつれはましていかに思つらむとさまくあはれにおほしゝらる中納言のあるしかたにすみなれて人ゝやすらかによひつかひ人もあまたしてものまいらせなとし給をあはれにもおかしうも御らむすいといたうやせあをみてほれゝしきまでものを思たれは心くるしとみ給てまめやかにとふらひ給ありしさまなとかひなき事なれとこの宮にこそはきこえめと思へとうちいてむにつけてもいとしよはくかたくなしくみえたてまつらむにはゝかりてことすくななりねをのみなきて日かすへにければかほかはりのしたるもみくるしくはあらていよく物きよけになまめいたるを女ならはかならず心うつりなむとをのかけしからぬ御心ならひにおほしよるもなまうしろめたかりければいかて人のそしりもうらみをもはふきて京にうつろはしてむとおほすかくつれなきものから内わたりに

もきこしめしていとあしかるへきにおほしわひてけふはかへらせ給ぬをろかな
らすことの葉をつくし給へとつれなきはくるしきものとひとふしをおほしし
らせまほしくて心とけすなりぬとしくれかたにはかゝらぬ所たにそらのけしき
れいにはにぬをあれぬ日なくふりつむ雪にうちなかめつゝあかしくらし給こゝ
ちつきせす夢のやうなり宮よりもみすきやうなとこちたきまでとふらひきこえ
給かくてのみやはあたらしきとしさへなけきすくさむこゝかしこにもおほつか
なくてとちこもり給へることをきこえ給へはいまはとてかへり給はむ心ちもた
とへむかたなしかくおほしならひて人しけかりつるなこりなくならむをおもひ
わふる人ゝいみしかりしおりのさしあたりてかなしかりしさはきよりもうちし
つまりていみしくおほゆときときおりふしおかしやかなるほどにきこえかはし
給しとしこりよりもかくのとやかにてすくし給へるひころの御ありさまけはひ
のなつかしくなさけふかうはかなきことにもまめなるかたにもおもひやりおほ
かる御心はえをいまはかきりにみたてまつりさしつる事とおほゝれあへりかの
宮よりは猶かうまいりくることもいとかたきをおもひわひてちかうわたひたて
まつるへきことをなむたはかりいてたるときこえ給へりきさいの宮きこしめし
つけて中納言もかくをろかならす思ほれてゐたなるはけにをしなへておもひか
たうこそはたれもおほさるらめと心くるしかり給て二条の院のにしのたいにわ
たいたまでときゝもかよひたまふへくしのひてきこえ給ひけるは女一宮の御
かたにことよせておほしなるにやとおほしなからおほつかなかるましきはうれ
しくての給ふなりけりさなゝりと中納言もきゝ給て三条の宮もつくりはてゝわ
たいたてまつらむ事をおもひしものをかの御かはりになすらへてみるへかりけ
るをなとひきかへし心ほそし宮のおほしよるめりしすちはいとにけなき事にお
もひはなれておほかたの御うしろみはわれならは又たれかはおほすとや